



レオ十四世教皇誕生

5月7日から始まったコンクラーベは、5月9日（日本時間）にロバート・フランシス・ブレヴォスト枢機卿の新教皇への選出をもって私たちに新たな指導者が与えられました。



Leo P.P. XIV

©VATICAN MEDIA

しながら枢機卿団は、教皇フランシスコの後継者を探しているのではなく、使徒ペトロの後継者を捜し求めているのだということを、皆が心に深く留めていました。枢機卿団が祈りのうちに求めたのは第二の教皇フランシスコの誕生ではなく、主ご自身から牧者となるように委ねられた教会を忠実に導く使徒ペトロの後継者でありました。多くの枢機卿が、多様性を尊重しつつも、信仰における明白性を持つて、教会が一致することの重要性を強調されました。』と語られています。

新教皇名はレオ十四世。アメリカ合衆国出身の聖アウグスチノ修道会会員。司教時代はペルーで、また聖アウグスチノ修道会の総長も務められました。バチカンでは司教省長官として働かれ、2023年に枢機卿に親任されたばかりでした。

菊地枢機卿の「教皇レオ十四世の誕生にあたって」（東京教区HPより一部抜粋）には、『毎日開催された枢機卿団の総会には、中略、その中で繰り返し強調されたのは、教皇フランシスコの類い希な深い霊性に基づく決断力と行動力への感謝の言葉であり、同時に教皇フランシスコが残された道を継続して歩み続けることの必要性でありました。しか

新しい教皇レオ十四世の人柄はこれから私たちに伝播されてくると思いますが、「ペトロの後継者」を与えられた私たちは、新教皇のために祈り、平和を求める教会が、希望の内に一致に向かって歩み続けられるようにも祈りたいと思います。【カトリック中央協議会HP参照】

2025年5月14日（水）、教皇庁広報部は教皇レオ十四世の紋章とモットーの説明について発表しました（下段）。

●紋章



盾の左上は青地に銀色の百合。右下は矢で貫かれた燃える心臓。これらの全体は赤色で、閉じられた本の上に置かれる。

盾の上には銀色のミトラ（司教冠）。ミトラは、三本の金色の帯と一本の金色の縦棒で飾られる。ミトラはひらめく赤色の垂飾りで裏打ちされる。垂飾りには金色の十字架と房がついている。垂飾りの前には交差したペトロの鍵（向かって左上から右下部が金色、向かって右上部から左下部が銀色）。二つの鍵は赤いひもで結ばれている。

●モットー IN ILLO UNO UNUM.

【説明】 紋章左上の青地は天の高さを思い起こさせ、マリアを表す。百合は古代から聖なるおとめマリアの象徴。紋章右下の白地に描かれた、矢で貫かれた燃える心臓は、聖アウグスチノ修道会の象徴。この図像は、『告白』（Confessiones IX, 2, 3）「山田晶訳、『世界の名著14 アウグスティヌス』中央公論社、1968年、290頁」で聖アウグスティヌスが述べたことは「あなたは私たちの心を、愛の矢で貫かれました」を象徴的に表す。この図像は16世紀以降、聖アウグスチノ修道会士の紋章で用いられてきた。紋章にはさまざまなバリエーションが伴う。たとえば、聖アウグスティヌスがそうであったように、すべての人の心を変容させることができる神のこぼる象徴的に示す、本である。本は、恩寵博士アウグスティヌスが教会と人類に与えた、輝かしい諸著作も想起させる。白地（教皇紋章においては象牙色）は修道会の他の紋章にもしばしば用いられ、聖性と純潔の象徴と解釈される。

モットーの「わたしたちは彼（キリスト）一人のうちに一つである」（In illo uno unum）は、聖アウグスティヌス『詩編講解』のことばの引用。

（教区事務局長 松村繁彦）

フランシスコ教皇

ご帰天



©VATICAN MEDIA

教皇フランシスコは、イタリア時間4月21日午前7時35分に脳卒中および不可逆性心血管虚脱により逝去されました。

追悼ミサ

教皇フランシスコの逝去については既にご周知の事と思いますが、同日にローマ教皇庁のケビン・ジョゼフ・ファレル枢機卿により発表された声を紹介いたします。

「親愛なる兄弟姉妹の皆さん、深い悲しみをもって、わたしたちの教皇フランシスコの逝去をお知らせしなければなりません。今朝7時35分、ローマ司教、フランシスコは、天の御父のもとに帰られました。同教皇の全生涯は、主とその教会への奉仕に捧げられたものでした。教皇はわたしたちに福音の価値を、忠実と、勇気、普遍の愛をもつて、特に最も貧しい人々や疎外された人々への配慮のもとに、生きることを教えられました。」

主イエスの真の弟子としてのその模範に計り知れない感謝を捧げつつ、教皇フランシスコの魂を三位一体の愛に委ねましょう。」

札幌教区民である私たちも、改めて教皇フランシスコの永遠の安息のために祈りをささげてまいりましょう。

追悼ミサ

4月29日(火・祝)の14時から、札幌教区司教座聖堂であるカトリック北一条教会にて、勝谷太治司教司式による教皇フランシスコ追悼ミサが行われ、冷たい雨が降る中、300名を超える方々が集まり祈りが捧げられました。

勝谷司教はミサの説教の中で教皇フランシスコへの印象を「教皇になってからの最初の公式訪問地をランペドゥーザ島にしたことによく表れています。ランペドゥーザ島は、多くの移民が海で溺れ死んだ悲劇を象徴する島です。教皇は最初の公式訪問をこの地を選び、現地の海の前たたずみ、この海に沈んだ人々のために祈り続けられました。世界が排他主義に陥り、分断され、移民に対して無関心になりつつある中、それを憂い、警告を与えられたのです。その後アメリカ国境に壁が作られようとしていた時には当地を訪れ、『私は

ちは壁を作るのではなく橋を作りましょう、それがクリスチャンです』と言われたのは印象的です。」と語り、その後の教皇フランシスコの働きを一つ一つ思い起こしながら、尊敬を込めて安息を祈りました。

また教区事務局では4月25日から29日まで、カトリック北一条教会聖堂左手の聖母子像手前に記帳台を設置、追悼ミサ前後には記帳の列が絶えないほどでした。寄せられた424名の方々の記帳には他教派、他宗派、未選者、観光客なども多く含まれており、多くの方々に愛されていた証が駐日ローマ教皇庁大使館に届けられました。なお、後日駐日教皇大使エスカラント・モリーナ大司教より松村事務局長宛てに礼状が届きました。

(教区事務局長 松村繁彦)



東京教会管区会議

2025年度東京教会管区会議が開催されました。

この会議は、2025年7月1日から2日にかけて千葉県長生郡で行われ、札幌、仙台、新潟、さいたま、東京、横浜の各教区の司教、事務局長などが参加しました。

会議の初日には、各教区の特徴ある活動や課題が共有されました。具体的には、教会会計の現状、高齢司祭の生活環境の整備、人口および信徒数の変化に伴う問題、そして召命数の減少といった議題が話し合われました。

翌日には、カトリック教会内で分断を引き起こす可能性のある活動団体の情報が共有されました。その他にも、シノドスの今後の進捗や、ハラスメントに対する各教区の取り組みと課題についても議論されました。日本全体で取り組むべき多くの課題が存在し、それら一つ一つに丁寧に向き合うこと、そして教区間の連携を強化することの重要性が再確認されました。

自由時間には、事務局長間で事務手続きの苦労や必要な知識の共

有が行われました。また、司教を交えた懇親会では、各教区が抱える根深い問題や日本全体の問題についても情報交換が行われ、有意義な時間を過ごすことができました。この会議を通じて、「一部であり全部である」という教会の働きを改めて認識させられました。

会議の最後に、聖バチルド・ベネディクト修道院にて菊地枢機卿によるミサが執り行われました。説教では、観想修道会における聖霊の働きや、教皇選挙を通して感じられた聖霊の息吹に触れ、シノドスの必要性が強く訴えられました。そして、全教会がその導きに従って前進していくことへの願いが述べられました。

(教区事務局長 松村繁彦)



全道司牧者大会



2025年6月3日から5日にかけて全道司牧者大会が札幌北広島クラッセホテルで開催された。参加した聖職者は司教・司祭・助祭・修道者を含め33名であった。

4日の午前には教皇フランシスコ著『識別』の一節を使い、シノドスチームの協力を経て初めて司牧者だけで「霊における会話」が行われた。また午後には今回の大会テーマでもある「ハンセン病問題について学ぶ」と題して、京都教区司祭で日本カトリック部落差別人権委員会の秘書でもある奥村豊師に講話をしていただいた。日本カトリック司教団は2024年

に『すべてのいのちを守る教会をめざしてーハンセン病問題 過ちを繰り返さないために』と題した文書を発行し、ハンセン病に対する教会のかかわり方について、「ともに生きようとする姿勢」に気づき足らず、特に「ハンセン病問題は人権問題であるが、隔離そのものが人権侵害であったとの認識が欠けていた」「福音的でないことに対して警告を発する預言者的役割を果たせなかった」という問題があったことを反省した。この研修を通して、参加したそれぞれの聖職者も自身のこととして受け止め歩まなければならないと認識することができたのではない

か。

大会の中で司祭の動向が発表され、叙階60年ダイヤモンド祝の千徳神父をはじめ、叙階50年金祝の中村神父、マテオ李神父もあわせてお祝いした。最終日は叙階60年を祝し千徳神父の派遣ミサで締めくくられた。

(司祭評議会運営委員長・

佐藤謙一)

教区宣教司牧評議会

6月7日札幌教区カトリックセンターにて開催された。司教からは日々長距離を移動する司祭の交

通安全の呼びかけと、昨今SNSにおいてなりすましで寄付を募る事案が多いことへの注意喚起があった。各地区からの報告の中では司祭の自動車移動に伴う経費の負担について意見交換もあった。

札幌教区シノドス・チーム及び各地区代表からは、昨年10月の「札幌教区のシノドスのつどい」以降の「霊における会話」の実施状況と今後の予定の報告があり、またこの会議において、「霊における会話」は、行うこと自体が目的ではなく、私たちが歩むべき方向を聖霊による「識別」のうちに



見出していくための、ひとつの「ツール」であるということが確認された。

会議後半は毎年司教から出される「年頭司牧書簡」について確認と意見交換がされた。この書簡は教区長が直接わたしたち教区信徒に語りかけるメッセージだが、「はたして信徒に読まれているのかどうか小教区訪問をすると不安に思うことがある」と、司教からの話があった。

そこで評議員は各地区に戻って司牧書簡の再認識の促しと、示された内容について各地区小教区での進捗と今後の展望の分かち合いを行い、11月の教区宣教司牧評議会に持ち寄ることとなった。

(札幌教区宣教司牧評議会運営委員・荒木関充・旭川六条教会)

第1回一粒会委員会

第1回一粒会委員会が開催され、新たな活動方針を承認

6月7日教区宣教司牧評議会に引き続き、第1回一粒会委員会が開催された。会議では、発起人である松村繁彦神父より、今後の運営体制について以下の通り確認があった。

教区宣教司牧評議会評議員が、一粒会委員会の委員も兼務する。司教任命により、神学生養成者として佐藤謙一神父、修道会・宣教会代表として間野正孝神父が推薦される。委員長には荒木関充氏(旭川六条)、副委員長には大江邦雄氏(苫小牧)と多田博樹氏(砂川)が選出される。なお、書記については次回(秋)に開催される教区宣教司牧評議会後の第2回一粒会委員会)までに決定されることとなり、承認された。

一粒会の目的と今後の展望

この一粒会については、既に「札幌教区ニュース48号」でも紹介されている。これまで一粒会は会計の管理が主な活動であり、献金が実施されていない教会もあった。また、具体的な活動がなく、その目的も教区司祭の養成に限定されていた。

しかし、今年からは教区司祭だけでなく、修道会や宣教会の召命も積極的に支援し、札幌教区全体の召命促進に貢献したいという思いで新たな一歩を踏み出した。各会が個々に活動するのではなく、同じ方向を目指し、札幌教区の全ての教区民が手を取り合い、召命を増やす努力をしていくことが確認された。

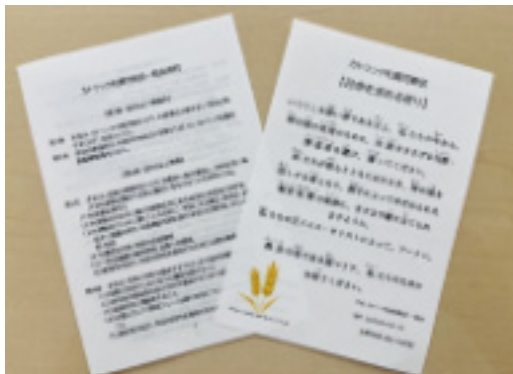
一粒会委員会メンバー一覧

- 一粒会委員
教区宣教司牧評議員（兼任）
- 一粒会委員会
会長 勝谷 太治 司教
- 一粒会委員会役員
委員長（三役） 荒木 関 充
【旭川六条教会】
副委員長（三役） 大江 邦雄
【苫小牧教会】
副委員長（三役） 多田 博樹
【砂川教会】
書記（三役） 未定
決定は三役に一任
- 教区神学生養成担当者
佐藤 謙一 神父
- 修道会・宣教会から
間野 正孝 神父
- 事務局
松村 繁彦 神父

今後、「召命を求める祈り」や「一粒会規約」の発行・全教区民への配布、「祈りの日」の設定、「召命を求めるポスター」の作成などを通して、司祭・修道者召命を増やす具体的な取り組みを「見える化」し、将来の札幌教区を支えていくための活動が始動する。

全教区民への呼びかけ

最後に、最も大切なことは、皆さんが力強く次の司祭・修道者を生み出す努力をしていくことです。司祭や修道者はどこから現れるものではありません。私たちにあって身近な存在の中から司祭・修道者を生み出すた



めには、皆さんの力が必要です。聖霊によってその力が与えられるよう、皆で祈りながら進んでいきたいと願っています。
(教区事務局長 松村繁彦)
※写真は配付予定の「一粒会規約」と「召命を求める祈り」

函館地区信徒との交わり

暑い季節です。皆様のご健康をお祈りします。私はカトリック馬山教区から宣教師として派遣されたアンセルモ・李動珍（イ・ドンジン）神父です。

2022年に日本に来て、やっと満3年が経ちました。私より経験が多く、日本で長い間過ごしてきた神父がたくさんいらっしゃるのにこんな文を書くことが少し恥ずかしいです。

この3年間の時間を振り返ってみると、宣教師としての時間は慣れる時間だったという気がします。今まで生きてきた国を離れ、文化も言葉も異なる国で暮らしながら信者の方々と接することは決して容易なことではありませんでした。特にカトリック教会の中で、互いに異なる伝統と文化を形成してきたということを感じた時、なおさらそうでした。「なぜこのようにするのか」と思う度に、これをどのように受け入れるべきか悩みました。個人的に下した結論は「間違っているのではなく、違うものなのだ」でした。

お互いに生きてきた文化が異

なり、生活環境も違ったために教会の中で形成された伝統も文化も異なるしかないという気がしました。「間違っている」と思うとぶつかりますが、「違う」と思うと理解の始まりになったと思います。これは相互に必要な部分だったと思います。

今生活している函館で、多くの信者の方々にお会いしながら、お互いの違いを理解し、その中で新しい道を探っています。そして、その中の信仰で私たちは一つという親近感がさらに大きくなっていくことも感じます。

お互いが違うことを認めて新しい道を探していくことが、この



時代に必要なの一つの考え方だという気がします。

短い3年の時間は私にとって新しい道を探そうと思える力になってくれたと思います。そしてその道の中で信者の方々と出会いは、一緒に歩いているこの巡礼の道にもう一つの希望として近づいてきます。宣教師と信者、司祭と信者ではなく同じ道を歩いていく兄弟姉妹として、お互いの違いの中で神様を感じ、一つになって進むことができることを今この瞬間にも祈ります。

(アンセルモ・李動珍神父)

教区事務局からお知らせ

■教区事務局夏休み

8月8日(金)～8月15日(金)

8月18日(月)より通常業務を行います
なお、業務時間は月曜から金曜の平日
12:00～13:00を除く9:00～17:00



2025年度 教区関係機関 担当司祭一覧

◎運営委員長

2025年6月1日 現在

委 員 会 名 等		役員・委員名	任期	備 考	
宗教法人責任役員		勝谷 太治 司教		教区長 代表役員	
		今 田 玄 五 師	3年		
		祐 川 郁 生 師			
		佐 藤 謙 一 師			
教区顧問会		今 田 玄 五 師	5年	司教総代理	
		上 杉 昌 弘 師		北見地区長	
		祐 川 郁 生 師		函館地区長	
		佐 藤 謙 一 師		札幌地区長	
		ラ イ ヤ 師		メリノール会	
		間 野 正 孝 師		フランススコ会	
	松 村 繁 彦 師		事務局長		
教区司祭評議会					
	司教総代理	今 田 玄 五 師	3年	司教総代理	
	事務局長	松 村 繁 彦 師		事務局長	
	札幌地区 ◎	佐 藤 謙 一 師		地区長	
		間 野 正 孝 師			
	北見地区	内 藤 孝 文 師		地区長代理	
	釧路地区	川 上 剛 師		地区長	
	旭川地区	佐 久 間 力 師		地区長	
	苫小牧地区	蓑 島 克 哉 師		地区長	
函館地区	祐 川 郁 生 師	地区長			
教区宣教司牧評議会					
	司教総代理	今 田 玄 五 師	2年	司教総代理	
	事務局長	松 村 繁 彦 師		事務局長	
	札幌地区 ◎	佐 藤 謙 一 師		地区長	
		後 藤 義 信 師			
		間 野 正 孝 師			
	北見地区	内 藤 孝 文 師		地区長代理	
	釧路地区	川 上 剛 師		地区長	
	旭川地区 ◎	佐 久 間 力 師		地区長	
		ナルチゾ 師			
	苫小牧地区	蓑 島 克 哉 師		地区長	
函館地区	祐 川 郁 生 師	地区長			
教区委員会					
	財政委員会	松 村 繁 彦 師	2年	現在休止	
	青少年委員会	佐 久 間 力 師			
	教区神学生養成委員会 ◎	千 葉 充 師			
		祐 川 郁 生 師			
		佐 藤 謙 一 師			
	典礼委員会 ◎	桶 田 達 也 師			
		ラ イ ヤ 師		苫小牧地区	
		佐 藤 謙 一 師		札幌地区	
		李 動 珍 師		函館地区	
		今 田 玄 五 師		旭川地区	
		プ ボ 師		釧路地区	
	上 杉 昌 弘 師	北見地区			
	広報委員会	松 村 繁 彦 師		司祭委員 佐藤・佐久間	
	聖書委員会	蓑 島 克 哉 師		司祭委員 松村	
	学校支援委員会	上 杉 昌 弘 師		司祭委員 松村・佐久間・蓑島	
	社会委員会				
	難民移住移動者委員会	祐 川 郁 生 師			
	ベトナム人司牧担当	チャン・タン・ラム師			
	カリタス・ジャパン	松 村 繁 彦 師			
	札幌カリタス	佐 藤 謙 一 師			
正義と平和協議会	蓑 島 克 哉 師				
エキュメニカル	蓑 島 克 哉 師				
月例関係					
	月例静修委員会	新 海 雅 典 師	2年		
		千 葉 充 師			
		佐 久 間 力 師			
その他					
	ハラスメント対応デスク 担当	松 村 繁 彦 師			
	ハラスメント対応デスク 対応委員会	担当司祭を置く		(非公表対応)	

2024年度 カトリック札幌司教区本部一般会計 決算書

(2024年4月1日～2025年3月31日)

収入の部			
勘定科目	予算額	決算額	摘要
分担金収入	78,990,000	78,890,000	
教区本部分担金（札幌地区）	52,000,000	52,000,000	
教区本部分担金（苫小牧地区）	5,690,000	5,740,000	
教区本部分担金（旭川地区）	7,260,000	7,060,000	
教区本部分担金（釧路地区）	3,280,000	3,330,000	
教区本部分担金（函館地区）	9,060,000	9,060,000	
教区本部分担金（北見地区）	1,700,000	1,700,000	
一般寄付金	5,000,000	5,621,283	修道会・墓地献金他
特別寄付金	0	0	
司祭寄付金	0	1,000,000	司祭1
広報の日献金振替収入	400,000	300,345	広報の日献金収入の50%
難民移住移動の日献金振替収入	400,000	328,226	移住移動の日献金収入の50%
その他援助金収入	0	0	
受取利息配当金収入	500	23,503	
賃賃料収入	4,200,000	4,272,222	カトリック学園家賃・電柱地代
特定積立金取崩収入（一般口）	1,000,000	0	
特定積立金取崩収入（青少年）	100,000	156,365	タイボランティア・フィリピン・エクストージャ報告書
特定積立金取崩収入（管理口）	12,000,000	12,000,000	管理部門人件費・光熱費
特定積立金取崩収入（司祭口）	3,040,000	2,940,000	司祭車両手当・リース1/2
退職積立金取崩収入	0	0	
祭儀献金収入	32,000,000	36,157,100	司祭・フランシスコ会より
未収入金	0	0	
雑収入	300,000	392,187	移住者連帯NW他・職員派遣謝金
計	137,430,500	142,081,231	
前年度繰越金	17,015,458	17,015,458	
合 計	154,445,958	159,096,689	

支出の部			
勘定科目	予算額	決算額	摘要
宗教活動費支出	5,650,000	3,876,612	
祭儀費	1,000,000	53,940	典礼書他
図書資料費	150,000	189,296	カトリック新聞・NHK他
教区宣教活動費	3,000,000	2,819,516	正平協・青年の家・教区宣司評他
国際協力活動費	1,500,000	813,860	移住移動者委員会
一般寄付金支出	23,100,000	22,453,550	フランシスコ会・CNDへ
宣教省献金支出	1,000,000	1,000,000	
分担金支出	1,640,000	1,540,000	
中央協議会分担金	940,000	940,000	
東京管区裁判所経費分担金	200,000	100,000	
放送分担金	500,000	500,000	こころのともしび
本部援助金支出	0	0	
人件費支出	74,642,000	69,211,063	
本部司祭給与	53,400,000	48,369,500	給与賞与23名・車両手当16名
本部司祭法定福利費	5,200,000	4,809,196	
本部職員給与	13,900,000	13,890,680	職員3名・パート1名（北1条と折半）
本部職員法定福利費	2,142,000	2,141,687	
退職金	0	0	
運営管理費支出	30,110,000	26,311,440	
業務委託費	8,000,000	7,739,460	賄い・清掃費・除雪・会計ライセンス
施設設備修繕費	5,000,000	2,583,790	エレベーター・駐車装置保全他
備品修繕費	100,000	0	
墓地管理料	500,000	721,050	白石プレート
損害保険料	600,000	583,550	火災保険・賠償責任保険
消耗品費	1,200,000	1,117,557	事務用品・コピー代・PCソフト他
通信運搬費	1,100,000	1,356,505	電話・FAX・ネット他
会議費	100,000	70,906	顧問会議8回他
渉外費	200,000	234,230	外部慶弔・来客司祭接待他
慶弔費	100,000	0	
旅費交通費	1,200,000	2,092,643	司教司祭他出張旅費
光熱水費	6,000,000	5,232,529	電気・水道・ガス
公租公課	30,000	15,300	印紙税他
報酬手数料	3,000,000	1,474,167	会計士・社労士・振込料他
賃借料	1,000,000	1,941,505	電話機・PC・複合機・車両リース
車両費	500,000	179,599	ガソリン代
広報費	1,000,000	541,303	教区ニュース3回他
福利厚生費	450,000	418,231	司祭職員健康診断他
雑費	30,000	9,115	ゴミ処理他
建物取得支出	0	0	
建物付属設備支出	0	0	
構築物取得支出	0	0	
機器備品取得支出	300,000	0	
退職金積立支出	750,000	750,000	退職職員積立3名
営繕等積立金繰入支出	10,000,000	10,000,000	センター積立
予備費	7,253,958	0	
計	154,445,958	135,142,665	
次年度繰越金	0	23,954,024	
合 計	154,445,958	159,096,689	

明日につなぐ 北海道カトリック学園

北海道内には60近くのカトリック幼児教育・保育施設がありますが、そのうち道央圏を中心に15の園を設置しているのが学校法人北海道カトリック学園（理事長・勝谷太治司教）です。

さて、近年北海道内の子どもの数は減り続け、残念ながら道内のカトリック学校・施設の中でも閉園・閉校のニュースが聞えてくる中、当学園は2024年4月に北広島市内に新たに保育園（小規模保育事業所）を新築して開設。また札幌市内の真駒



内聖母幼稚園を0歳から小学校入学前の5歳まで保育する幼保連携型認定こども園として新築、新たに開園させました。

道内の子どもの数（0～5歳児人口）はこの15年間で約4分の3に減ってしまいました。その中であって当学園の総園児数は約2%の減少と、ほとんど変わっていません。園児数が一番少なかった2005年当時と比較すると逆に10%総園児数は増えています。

わたしたちがカトリック園として大切にしているものは全く変わっていませんが、世の中が変わり、時代と共に日本の社会の中で、地域の中で、幼稚園が求められる役割は急速に変化しています。カトリック園であろうとなかろうと、求められるニーズに応え、高い水準で地域に貢献していく努

力を欠かさないことは、そもそもこの仕事を続けていくための絶対条件です。拡大を求めているわけではありません。園児数はその結果です。

さて「司祭・修道者でなければ、信徒でなければ、ましてや教会がなければ、神さまのことを子どもたちに伝えることなどできるはずがない」という声を時々耳にすることがあります。

一度私たちの園をのぞいてみてください。0歳の赤ちゃんが一生懸命に手を合わせてお祈りしようとする姿をご覧になることでしょう。朝の祈りに始まり、聞こえてくる元気な聖歌の歌声、そしてどの園でも手を合わせ、心を静かにして祈ることを教える先生たちの姿がそこにあります。洗礼を受けた信徒の先生はほほいしません。全15園の教職員370名のうち、現在信徒は20名弱です。信徒が一人もない園も数多くあります。

ですが全く心配していません。わたしたちが大切にするカトリックの教えは決して洗礼を受けた信徒のためだけにあるものではありません。「幼な子をわたしのもとに來させなさい」とおっしゃったイエスさま、それをすべての教職員が日々笑顔で実践してくれています。

時代の変化の中で課題は尽きませんが「少子高齢化は当たり前、では私たちは何をしたらいい？」子どもたちと先生の笑顔に囲まれて北海道カトリック学園の挑戦はまだ続きます。

（北海道カトリック学園幼児教育事務局長

土生誠）

※写真はカトリック聖園てんしのおうち

アグネス・カンさん オルガンコンサート開催

5月14日、北広島教会にて、韓国のオルガニスト・アグネス・カンさんによるオルガンコンサートが開催されました。マテオ・李神父のご縁で実現したこの機会には、信徒や近隣教会の方々が多く参加され、美しい音色と高度な演奏技術に感動のひとつを共にしました。

演奏後は、信徒手作りのおもてなしによる茶話会とオルガン勉強会も行われ、マセオ・奇神父の通訳のもと、貴重な学びの時間となりました。昨年導入した新しいオルガンのお披露目として、記念すべき一日となりました。（駒井聖子・北広島教会）



平和旬間行事 シスター弘田しずえ平和講演会

世界的な規模で宣教活動が続けるシスター弘田しずえの講演会「カトリック信徒としての『正義』と『平和』」（カトリック札幌教区正義と平和協議会主催）が7月5日、札幌教区カトリックセンターで開かれた。約50人が集まり、オンラインでも約20名が視聴した。

シスターはベリス・メルセス宣教修道女会会員。ニカラグア、メキシコ、フィリピンで長く宣教生活を送り、2012年から18年まで同会の総長を務めた。日本カトリック正義と平和協議会専門委員で、私たちの戦争と平和資料館（WAM）の理事でもある。講演で、シスターは前

教皇フランシスコの任期12年間の軌跡を振り返り、信徒としてのあり方などをパワーポイントを駆使して語りかけた。

「教皇フランシスコは、教会の在り方を革命的に変革した」とし、『大地の叫びと貧しい人びとの叫びを聴く』という前教皇の言葉の重要性を協調した。彼の訴えた「対外債務免除」「死刑廃止」「武器よりも開発に資金投入を」について解説。



前教皇時代に盛り上がった女性助祭問題についても報告した。一方、トランプ米大統領が進めるめちやくちな政策などを批判し、「（世界が）経営主義の独裁者の時代になっている」と指摘した。

そして、シスターは最後に「解放の神学」の先駆者・ブラジルの故エデル・カマラ大司教の文章を朗読した。「富裕層の利己主義は、共産

主義よりも深刻な問題である。（中略）世界を革命化するためには、私たち自身がイエス・キリストの福音に真の確信を持つて生き、広めることだけが不可欠だ」そして、「苦しむ世界について、正しい怒り、悲しみを感じる事が世界を変える力となる」と締めくくった。講演の記録は後日、YouTubeで配信される。

（植村隆・北一条教会）

【訂正とお詫び】教区ニュース49号9頁「ミヤンマーの青年から学ぶ」の執筆者名に誤りがありました。正しくは（手稲教会・沼田留麗子）です。訂正してお詫び申し上げます。



国際都市フラノ



旭川六条・神居・大町・富良野教会主任
長尾俊宏神父

富良野カトリック教会は70年前から旭川地区のフランシスコ会の神父たちが担当してきました。ロビーに「訪問者名簿」が置いてあります。年中国内外から訪問者が来ます。スキー客、旅行者、家族

友人仲間、東南アジアの人たちが多く、以前ならそろ！英語のミサ本を！今はインターネットで母国語のミサにあずかっています。先日も親子でミサにあずかって行きました。多い月は20〜30人、数組のグループが来ます。

私は夏は車で、冬は列車で移動しますが、フラノから旭川へ、多い時は一両の半数が外国の人たちです。この時期はローマン・カラーでカトリック教会の司祭がいますよ！とPRします。日本の国、北海道の山の中の街に何十万、何百万のカトリックの信者さんのいる国から普段20人ぐらいの教会にミサに来てくれる！愉快ではないですか。先日「自分の国にもフランシスコ会の神父がいる」と、シンガポールの親子が喜んでいました。そして記念写真も撮りました。

いつか私も国際人になるかも。小教区で働く神父はみな、ここでもしか体験出来ない中で教会と共に成長させてもらっています。田舎司祭たちを年齢に関係なく応援してください。

旭川フラノロードは四季折々見事に景色が変わります。雄大です。美しいです。春の、秋の山々、丘々いつ見ても嬉しく楽しくなります。これも地方で働く神父への神様からのプレゼントだと思っています。いつか、みなさんもフラノへ！国際人になれるかも。昨年も国内外から数組の巡礼団が来しました。もちろんスキーリゾート、ラベンダー畑、昔のロケ地跡など、すぐ近くにあります。北海道の中心『ヘソの町フラノ』沢山の思い出と出会いがあるよ！

フラノに向う車の中であれこれ人との出会いを思い出したり、美しい景色を見たり、冬の列車の中から厳しい自然を見ながら、小さな街の小さな教会のミサに行っています。6月の始め、修道院の庭を見ながら思いついた話です。

世界祈祷日2025 in 札幌

2025.5.17



をあらためて実感できるような礼拝にすることを心がけました。

4月にリハーサルをやったこともあり、リーダー、朗読者の方がたも、クック諸島の女性たちのメッセージを心をこめて伝えてくれました。清水和恵牧師は、最初の讃美歌をギターで伴奏され、より自然な雰囲気での礼拝を始めることができました。その後の讃美歌は北光教会の、みことなパイプオルガンの演奏とともに歌うことができ、他教会の者にはよい体験になりました。指方愛子牧師のメイン・メッセージも心に残るものでした。

交流会にも約半数の方が参加され、それぞれの教派の紹介もあり、朗読者の方々のいろいろな感想も述べられて、1時間足らずでしたがよい交わりの時を持てたと思います。

来年については、やはり同じ5月に、また今回のような実行委員会方式でやりましよう、ということ満場一致で了承し感謝の祈りをもつて散会しました。

なるため、実行委員会は単年度会計とし、当日かかった費用などは席上献金から支払い、残りを日本キリスト教協会（NCC）に送るということに決めました。また冊子購入も、事前の予約制にすると対応が大変になるので、一括購入して当日販売としました。

当日は実行委員会のメンバーのほか、北光教会、ホレンコの方々のお手伝いもあり、合同礼拝と交流会を成功裡に行うことができました。参加者は合同礼拝113名、オンライン参加者7名で、合計120名。交流会は50名でした。参加教会は、30教会、4団体になりました。

クック諸島の女性たちの式文にできるだけ忠実に、祭壇には模型のカヌーやココナッツ、貝殻を捧げ、また朗読者、参加者も、事前に実行委員会を用意した生花を髪や服につけて、神さまの造った自然を尊び、また、与えられた自分自身の体のすばらしさを感じ、それ

結果的には、事前購入の冊子が、昨年不足して困ったのですが、今年は逆に、余裕をもたそうと、やや多めに購入したら余ってしまいました。一括購入することで、NCCの手間を省くことに貢献しているのですから、できればNCCには、今後は販売数だけを支払えるように変えていただきたい、というのが実行委員会からNCCへの要望です。席上献金は109,022円でしたが、そこから当日、精算した費用を引き、さらにカンパ金などを加え、冊子購入代金をあわせて、128,207円を、NCCに送付しました。

ご協力いただきました札幌キリスト教連合会の皆さまに感謝いたします。

（エキュメニカル委員会代表・小野有五）

カトリック札幌司教区
ハラスメント対応デスク

080-2879-3168

火曜～金曜 12:00～16:00
祝日夏季冬季休業日除く

✉ sapporo.harassmentdesk@gmail.com



9月27日(土)15時から、札幌教区カトリックセンターにおいて、カトリック札幌教区正義と平和協議会主催の環境講演会を開催します。「プラスチックゴミの本当のはなし」(講師吉野良子さん)参加無料。詳しくは教区ホームページをご覧ください。

プラスチック
ゴミの
本当のはなし

2025.
9.27 sat. 15:00～

講師
吉野良子さん

お知らせ

コロナ禍でアルバイトがなくなり、学費を支払うことができなくなった留学生たちへの支援（給付型奨学金）がまもなく終わるので、この場を借りてご報告したい。

2020年春にカリタス家庭支援センター（2021年3月末閉所）と共に行った「新型コロナによる生活困窮者への特別寄付」から派生して、難民移住移動者委員会宛てに寄付をいただくようになった。まとまった金額になったので、委員会でご検討し、

上記特別寄付を受けた人の中から、カトリック信者を中心に声かけて、2020年後期の学費支援を打診した。彼らは、アルバイトで生活費と学費の両方を工面していたので、アルバイトができない状況の中、誰もが喜んだ。

2020年夏から始まった学費支援は、その後も多くの方から寄付をいただき、総額2千万円ほど集まった。2025年春まで18人の留学生にそれぞれの状況に応じて、支援を行い、最後の留学生がこの秋、卒業を迎える。母国の大学で教えている人、札幌のホテルのフロントで働いている人、介護施設で働いて

ともに生きる

学費支援終了報告

福祉士となつて介護施設で働いている人、IT会社で働いている人、札幌で就職したけれども、家族が相次いで亡くなり帰国した人、コロナ禍で誰とも合わない生活の中、始めたポディビルの虜になり、母国でポディビルのインストラクターとして働いている人もいます。若干残る残金は、一般社団法人反貧困ネットワークが行なっている仮放免高校生奨学金プロジェクトに寄付する予定である。このプロジェクトは、高校無償化の対象外とされている仮放免の高校生に対し、公立高校の1か月の学費相当分である1万円を奨学金として渡すもので、活動に参加している大学生や院生がチューターとなり、定期的に家庭などを訪問し、進学や生活についての相談を聞き、専門学校の説明会に同行したり、日本語や作文の指導をしたりしている。

学費支援を通して、彼らの生活を知るだけではなく、彼らの信仰に触発されることが多かった。支援をしてくださった皆さま、本当にありがとうございました！（札幌教区難民移住移動者委員会・西 千津）

訃報

◆殉教者聖ゲオルギオの

フランシスコ修道会



Sr. M. エディット
牧野 玲子

5月13日花川マリア院にて神様の
みもとに召されました。87歳。

【略歴】

1937年11月18日生まれ
1952年10月25日受洗
1966年3月24日入会
1976年8月12日終生誓願
2018年11月3日誓願金祝

◆マリアの宣教師

フランシスコ修道会



Sr. アグネス
筑摩 輝子

6月17日北海道消化器科病院にて
神様のみもとに召されました。
96歳。

【略歴】

1929年3月19日生まれ
1951年9月15日入会
1957年9月17日終生誓願
2021年9月15日プラチナ祝

白石共同墓

札幌市白石区平和通10丁目北5-1
札幌市白石本通墓地

札幌教区の司祭・修道者・信徒なら
びにその家族を対象とした合葬墓

クリプト札幌

カトリック札幌司教区納骨堂

札幌教区カトリックセンター地下
家族壇568区画・合葬壇730
天候問わずいつでも墓参可能

お問い合わせ ☎060-0031 札幌市中央区北一条東6丁目10 札幌司教区本部事務局
電話 ■白石共同墓：011-241-2785 ■クリプト札幌：011-221-4244
いずれも平日9:00～17:00（土曜日曜祝日及び夏季冬季休業を除く）

■■お願い■■

お盆を控え墓参の機会も増える頃を迎えました。合葬墓の墓参後は供花は必ずお持ち帰りください。ゴミ置き場には捨てないでください。共同墓地の美化にご協力ください。



先日、直系
親族の最後の
叔父が亡くな
りました。私
とは六つ上の
79歳でした。
彼とは年も比

較的近かつたので、夏・冬休みの故郷への帰省の際には、よく遊んでもらいました。ただ、彼の場合は、小学校高学年から知能と心の成長が止まってしまいました。それでも、当時の日本は高度経済成長の時代でしたので、北海道の片田舎の町でもガソリンスタンドに勤め、目端の利くことは無理であっても指示されたことを黙々と熟す働きぶりであったようです。晩年、買い物からの帰り道がわからなくなり、とんでもない山道を歩いているところを保護され、福祉課の担当者から直系親族ということ電話があつたりしました。特に人に誇れるようなこともない人生でした。それでも、僅かな年金でつましく暮らし、後始末の為の幾ばくかの貯金も残していつてくれました。見事な人生であったと私は思っています。私には、一つの楽しみが出来ました。神は彼の人生にどのような計画をたてられていたのでしょうか。『その日』、イエス様は彼になんと言葉をかけられるでしょう。是非とも聞いてみたいと切に思っています。（桶田達也）